

「こんにちは！知事です」（平成21年11月26日実施）の概要について

平成21年11月26日（木）、鱒ヶ沢町立鱒ヶ沢第一中学校において、「こんにちは！知事です」を実施しました。

「こんにちは！知事です」は、知事が小・中学生の皆さんと交流し、将来への期待等について意見交換するものです。

平成21年度は、鱒ヶ沢町立鱒ヶ沢第一中学校が2校目の訪問校となり、当日は全校生徒201名が、知事と意見交換を行いました。

生徒による歓迎のあいさつ及び学校紹介

生徒会長

三村知事さん、ようこそ鱒ヶ沢第一中学校においでくださいました。これまで、テレビでは三村知事さんを拝見したことはあるのですが、直接このようにお会いできるとは夢にも思いませんでした。三村知事さんと意見交換ができる今日のこの日をみんな心待ちにしていました。短い時間ですが、最後までどうぞよろしくお願いします。

それでは、鱒ヶ沢第一中学校の紹介をしたいと思います。鱒ヶ沢第一中学校は、日本海と岩木山が臨める鳴戸ヶ丘に位置し、昭和45年に舞戸中学校、中村中学校、芦菴中学校、長平中学校、鳴沢中学校の5校と第二松代分校が統合されて創立した学校です。今年で40年目になります。学校規模は、各学年2クラスの6学級で、全校生徒数は、男子115名、女子86名の201名です。

私たち鱒一中生徒は、「少年よ 自分を伸ばせ そして、郷土の未来を開け」という校訓のもと、先輩たちが築き上げた伝統を受け継ぎながら、勉強と部活動に毎日励んでいます。

鱒一中生の1日は、あいさつ運動から始まります。これまで1日も休むことなく継続して行っています。生徒会活動も活発で、今年度は「夢道拓進（むどうたくしん）」というテーマで取り組んでいます。これには、夢への道を切り拓き前進していくという思いが込められています。また、部活動も盛んで、今年度は相撲部と水泳部が全国大会に出場するなど、すばらしい活躍をしています。

このように、私たちは鱒一中で充実した楽しい学校生活を送っていますが、残念なことに、平成23年度に鱒ヶ沢第二中学校と統合することになっています。あと1年で閉校となりますが、私たちは閉校までに鱒一中の伝統を完結させるという思いで頑張っています。

それでは、鱒ヶ沢第一中学校の普段の学校生活をビデオにまとめたので、ご覧ください。

（ビデオ上映）

鱒一中では、学習に力を入れています。普段の授業は、みんなが明るく楽しく授業に取り組めます。毎週行われるチャレンジランキングでは、各クラス、全校で1位を取れるように頑張っています。先週の社会のチャレンジランキングでは、1年生が3年生に勝利し、

1 番になりました。

鱒一中の一日は、あいさつ運動から始まります。校門の前に生徒と先生方が立って、登校してくる生徒にさわやかなあいさつを送ります。

スポーツ面でも、鱒一中はすばらしい成績を残しています。中体連や新人戦では、毎年、優秀な成績を残しています。特に相撲部と水泳部は、ご存じでもあるかと思いますが、東北大会、全国大会に出場し、奮闘してくれました。ほかの部活動も負けじと、日々の練習を積み重ね、自分たちの力を発揮しています。おのおの自分たちの夢に向かって、日々の練習に打ち込んでいます。その一人一人の頑張りが、自然に鱒一中全体を盛り上げています。

何ととっても、鱒一中は行事がすごいです。5月に行われた運動会では、今年は紅白応援を行い、全校が一つとなって盛り上がりました。どの競技も胸が熱くなるものですが、一番力が入っているのは学級応援です。自分たちで最初から最後まで振りつけを考え、自分たちでつくった学級旗とともに、精いっぱい応援をしてくれます。どの学級もすばらしいものです。

10月17日と18日に行われた文化祭、今年は今までより盛り上がった文化祭だという評価をもらいました。僕たちもそう思っています。17日の合唱コンクールでは、どの学級もレベルの高い合唱を聞かせてくれました。それまでにはたくさんの苦労がありましたが、最後は最高の合唱を見せてくれました。18日は全校一丸となり盛り上がりました。短い準備期間の中、みんなは本当によく頑張ってくれました。準備と苦労を重ね、全校みんなで最高のものを完成させました。後ほど、ぜひ私たちの全校合唱をお聞きください。

簡単ですが、これで鱒一中の紹介を終わります。

意見交換

生徒1

三村県知事さんに質問です。私は今、勉強と部活で悩んでいます。私は1年生で陸上部に入って長距離をやっているのですが、家に帰ると疲れてなかなか勉強できません。三村知事さんは、中学時代の部活は何でしたか。また、両立するための工夫や頑張ったことをお聞かせください。

知事

私は昔、陸上短距離の選手でしたが、足を痛めたりして、途中でリタイアして、科学部に移って、陸上と科学両方の部活をやりました。

では、勉強のヒントを教えます。教科書というのは、すごくよくできています。ですから授業の時間にしっかりとノートを取って、自分のノートをちゃんとつくれば、それで勉強はものすごくいいと思います。それに、スポーツをしていると、集中力は大事ですよ。

だから、授業の時間でも、先生が黒板に書いたことを写すだけではなくて、集中して、そのとき先生がちょっと説明したことなどを自分のノートにきちんと書き記すことが、将来とても役に立つことがあると思います。

それに、予習と復習、特に復習は大事だと思います。夜どうしても眠かったら、予習しなくもいいから復習する。今日授業でこういうことをやったなど、寝る前にノートを見て、今日はこういうことを勉強したと思ってパタッと寝て、次の日、目が覚めると、よし、頑張ろうという気持ちになると思います。

1年生なので、まだ生活のリズムがなかなかつけれないかもしれないけれど、これからでもまだ間に合います。ノートをきちんとつくる、そのノートに先生が言ったことをきちんと書くということと、復習をきちんとすれば大丈夫だと思います。

生徒2

今、青森県では医者や看護師さんが減少しているようですが、将来、私たちの中からも医者や看護師さんになる人がたくさん出てくるといいのですが、これからもどんどん減少していくようなことが起きたら、どのような対応をするのですか。



知事

実は、お医者さんが足りなくなってきたというのは、随分前からです。どのくらい前からかという、私が旧百石町で町長をしていた17～18年前から、町立病院が赤字で、お医者さんが足りませんでした。その頃から、青森県の場合は、医学部合格者も少ない上に、地元の弘前大学に受かってお医者さんになっても、東京や仙台などへ出ていく人が結構多くて、自分が町長時代にやった仕事で一番大変だったのは、お医者さんを探すことでした。あちこち全国を回って歩いて、お医者さんを探しました。小さい町では、そういうふうに町長自身が全国いろんなところをお医者さんを探して歩かなければならない時代がもう始まっていました。

その頃から、青森県は医師を育成して、青森県に残ってもらうということを一生懸命やらなければいけないと思っていました。町長をしていた当時は、保健・医療・福祉包括ケアシステムといって、お医者さんだけでなく、福祉や健康づくりを一体化する、全国でも新しい仕組みをつくりました。そうしたら、そこでお医者さんをやりたいという人が来てくれて、病院も黒字になって、町の人たちもすごく助かりました。

町長のあとは国会議員をやって、そして知事になりましたが、知事になってすぐ、全国に先駆けて、「良医（良いお医者さん）を育むグランドデザイン」をつくりました。お医者

さんを、学生のうちから育てて、そして、青森県に興味を持ってきて、自分が青森県のお医者さんになってよかったなと思える人たちを育てようという仕組みです。まず、高校生については、現役のお医者さんや医学部の学生に、いろんな高校に行ってもらって、「お医者さんという仕事は、命と真正面から向きあう、すごく充実感がある仕事で、人の命を助けるというのはすばらしいことだ。」といった話をしてもらっています。それというのも、青森県は医学部を受験する人がすごく少なかったので、医学部に興味をもってもらいたかったのです。

それから、医学部に進学すると、お金がかかりますが、お医者さんは、人の体はもちろん、人生を見る仕事だから、勉強だけするのではなくて、人の悩みや喜び、悲しみ、そういうのをたくさん経験しないとイケません。そのため、アルバイトばかりではなく、クラブ活動とか、恋愛や、友だちとの付き合いとか、いろんなことができるようにさせてあげたいと思い、県の奨学資金を倍に増やして、医学部に進んでも、可能な限り実家に迷惑をかけないで勉強できるようにしました。

それから、地元の場合、弘前大学と交渉して青森県枠をつくってもらいました。

それに、受験に強い予備校の先生を青森県に連れてきて、夏休みや冬休みに、県下の高校生で我こそはと思う人たちを集めて特訓するような会をやりました。それで、今までは約40人ぐらいしか合格できなかったのが80人以上合格するようになりました。

80人以上合格しても、青森県にお医者さんとして残ってくれないと困ります。お医者さんの免許を取ったらどこへでも行けるので、弘前でもどこでも、よそへ行ってお医者さんになりたいという人は結構多くて、そういう人たちに残ってもらうために、指導医という、お医者さんがお医者さんに勉強を教える場合に、その指導するお医者さんたちにすごく仕事のできる人たちを集めるということをやって、今、頑張っています。

看護師さんのほうは、昔から看護学校がありました。保健大学をつくって、看護師さんたちが、結婚して子供を産むために休んだりした場合に、もう一度復帰できるための勉強もできるような仕組みもつくっています。

生徒3

東北新幹線新青森駅を建設中ですが、新駅ができることで交通の便が今以上によくなり、全国からも青森県を訪れる人が増えると思われ。多くの方が青森県に来てくれると青森県も豊かになり、県民の生活にもよい影響を与えたいと思います。三村知事さんは、どのように観光客を集めようとお考えですか。僕は、青森県にいろいろな観光名所をつくってあげたいと思います。

知事

東北新幹線が来年の12月に新青森まで開業します。2012年度末までには、最高速

度が320キロで、東京まで3時間5分で行けるようになります。

ところで皆さん、新幹線が320キロのスピードを出すために、三沢にある会社で作ったスピードセンサーが使われていることは知っていますか。青森県の技術で新幹線が320キロを出すことができるということで、すごくうれしいと思っています。

話を戻しますが、新幹線が来るということは、チャンスがたくさんあると思っています。でもピンチもあります。まず、ピンチのほうは、新幹線が来ると便利だから、仙台にとどまらず、東京に買い物に行こうとか、週末にちょっと出かけようなど、青森県からも出ていきやすくなります。そうすると、青森県の人全部、青森県のお金を持って東京のほうに行ってしまうと、すごく大変だなということがあります。

でも、その逆のチャンスの方が大きいですが、どれだけ多くの日本中の、特に首都圏の人たちが青森県に来てくれるか。遊びに来ることもあるし、仕事に来ることもあるし、いろいろなチャンスが生まれてくると思っています。約3時間というのはとても近いです。東京から西の方に向かうと、3時間5分とすれば、兵庫県姫路のあたりまでしか行けません。つまり、青森は大阪よりも東京に近くなるということです。

直接的には、観光客をたくさん呼びたいと思っています。今、我々青森県だけでなく、JR東日本も各旅行会社も、旅行商品をつくろうと気合が入っています。例えば、皆さんの鱒ヶ沢、あるいは、西海岸であれば、五能線が走っていますよね。五能線は多くの人たちが興味を持っていて、五能線から見える沈む夕日が美しいとか、鱒ヶ沢の海の駅「わんど」で魚を焼いて食べたらいまいよなという話が広がって、すごく多くの人たちが興味を持っています。でも、来るのにはちょっと不便だなというのがありましたが、3時間5分で新青森までやってきて、列車の接続をよくしていくと、鱒ヶ沢にも、西海岸にもどんどん人を呼べると思っています。

先週、JR東日本の社長といろいろな話し合いをしました。そうしたら、向こうから、「JRは総力を挙げて青森にお客さんを送り込む。JR東日本とすれば最後の新幹線の開業だ。日本の地図を考えてみると、青森に連れていけば、お客様は、おのずと、どちら回りになるだろうが、全部JRに乗って帰っていく」と。JR東日本もものすごく気合が入っていて、東日本だけでなく、全国のJR6社で「デスティネーションキャンペーン」、要するに、集中的に宣伝してみんなで青森へ行こうということをやっていくことになっています。

もちろんJRだけでなく、我々青森県としても、例えば、来年の1月には、東京の表参道で、冬ねぶたを出したり、表参道とか明治神宮近隣の商店街の人たちが道路沿いに青森の旗を全部立ててくれることになっていたり、あるいは全部のカフェレストランが、青森の食材で青森フェアをやってくれたり、そういうふうと一緒に協力して青森を盛り上げてくれることになっています。

あと、あちこちで津軽三味線コンサートを開くなど、東京中に青森を大宣伝することに

なっています。

その他にも、すごく地道だけれども、一番大事なこととして、全国の旅行会社の方々に青森に来てもらって、鱒ヶ沢を回ったり、深浦に行って十二湖を見たり、北に上って十三湖のほうに行って安東水軍を訪ねたりなど、新しい旅行商品をたくさんつくって、みんなで楽しもうということも、旅行会社の人たちが集まって青森で商談会もすることになっていました。とにかく一生懸命、今、青森をどんどん宣伝しています。

それと、皆さんは地元の青森にいるから気がつかないんだけど、「まるごと青森情報発信チーム」という県庁の宣伝部隊がいます。いろいろなところのテレビ局だとか新聞社だとか雑誌社だとか、そういうところに青森の宣伝を一生懸命しています。もしお金をかけて広告したとすれば年間60億円にもものぼるような効果をあげており、テレビ番組に何十本出したとか、雑誌の記事に何本出たとか、そういう感じで我々の青森県を宣伝する部隊がいます。その成果としては、例えば、『美味しんぼ』という漫画を知っていますか。『美味しんぼ』の第100巻は丸ごと一冊青森を特集してくれました。また、青森のおいしいものをどんどん宣伝するために、熊谷喜八さんという、とても有名なシェフが、深浦のニンジンなど青森の食材で、料理をつくってくれて、さらにそのお弟子さんたちもつくってくれていて、青森はおいしいらしいぞ、行ってみようという話をしてくれたり、あるいは、今年の11月に東京池袋の東武デパートのレストラン街が全店舗で青森の食材フェアをやったりとか、青森を県外の皆さんに覚えてもらうということを進めています。

今日は、そういったことに詳しい、西北地域県民局地域支援室長が来ていますので、少し補足してもらいます。

西北地域県民局地域支援室長

今、皆さんの価値観が、地方に根ざしたものが本当にいいんだという時代が変わっています。例えば、東京の人でも「青森の方言、いいな」と思いますし、もちろん、鱒ヶ沢の食材もいいなとなってきています。例えば、鱒ヶ沢で言えば、今、スローフードの取組というのもやっています。「スローフード」という言葉を聞いたことがありますか。「ファストフード」に対して、ただゆっくり食べるということではなくて、地元の食材のよさとか、あるいは、食の教育であるとか、あるいは、つくる人を大事にするとか、そういう取組を実は鱒ヶ沢でもしてしまっていて、そういう取組は、今、知事からも説明がありました、KIHACHIとか全国の有名なレストランも、地方の食材に非常に興味を持っています。地域に根ざしたものにこそ価値があるという時代になってきています。

皆さんも自信を持って、自分がこの地域で育ったことは全国に通用するんだということで、頑張っていたきたいです。私は今、西北地域県民局で、局長のもと、この地域を元気にする応援をしています。皆さんがここで活躍することも、県外に出て、帰ってきて、ここでまた何かやりたいというときも応援していきます。観光・農業も含めて、「食と観光

「じゃわめく西北地域」をつくっていきたいと思いますので、何かありましたら、西北地域県民局にご相談いただければと思います。

生徒 4

三村知事さんが一番苦勞されていることは何ですか。また、知事の仕事をして心がけていることは何ですか。

知事

一番苦勞しているのは、青森県の借金を返すために、財政再建をすごく頑張っていることです。青森県の予算規模が約7,000億円で、今、約1兆3,000億円の借金がある状況です。最近やっと元金の返済に到達しましたが、その前までは、金利を返すだけでも大変で、行財政改革をやって、知事や職員の給与をカットしたりして、利息の部分を払っていました。最近、やっと元金ベースでの黒字（借金の利息を払って、かつ、元金の返済ができる状況）にたどりついたと思ったら、国からの仕送りみたいなもので交付税というのがあるんだけど、それを減らされたりしました。青森県をつぶさないようにと、とにかくがんばっています。そういうことが一番の苦勞です。

そういった中でも、仕事づくりにがんばっています。皆さんが働く場をつくるために企業誘致をしたり、リンゴを売ったり、鱈ヶ沢のおいしい水産物を売りに行ったり、要するに、県外、国外から、青森県にお金が入るようにして、県内でお金が回るようにして、会社とかみんながつぶれないようにするのが一番の苦勞と仕事です。

そのために何を心がけているかということ、健康管理です。早めに寝るとか、こまめにうがい・手洗いをしています。それというのも、皆さんに知事のスケジュール表を見せてあげたいくらいですが、ほとんど休みがなく予定で埋まっています。仮に、自分が行けなくなるというんな人に迷惑がかかります。例えば、今日この鱈ヶ沢一中に来ようと思ったのに、熱が出た、インフルエンザにかかったなどの理由で来られなくなると、せっかくの機会がつぶれてしまいます。だから、健康管理にすごく気をつけています。

それにしても、県の借金返済のめどがやっと立ってきたので、何とか青森県をつぶさないでいきたいと思っています。

皆さんにもお願いがあります。皆さんも自分でできることは自分でやろう。お父さん、お母さんにあれ欲しい、これ欲しいということと言ってもいいけれども、小遣いを自分で残してためて何か買い物をするとか、そういうふうにしてくれたらいいと思います。

あとは、すごく単純な話だけど、ごみの処理などは、市町村にとってすごくお金がかかるので、家庭のごみをきちんと分別するとか、買い物袋を自分で持っていくとか、町のために何か少し役に立とうということ、町のほうで町民の皆さんにいろんなお願いをしていたら、それに協力してくれるようにしてくれたらうれしいなと思います。

生徒5

今、さまざまな県でご当地ヒーローなどをつくって知名度アップを図っていますが、今、実際に青森県で取り組んでいることは何ですか。また、これから取り組もうと考えていることがありましたら、教えてください。

知事

青森県の場合、さっきも話しましたが、「まるごと青森情報発信チーム」というのが、マスコミなどいろんなところに入り込んで青森県の情報を流しています。



その他、青森県産品PRキャラクターの「決め手くん」は皆さん知っていますか。決め手くんを12体つくって、全国各地や台湾でも活躍しています。他にも、青森県内の各地域に、いろんなキャラクターがあって、一斉に力を合わせて宣伝しています。

また、本県の場合、全国に知名度を上げる場合に、ヨーカ堂さんとかジャスコさんの力をものすごく借りています。全国で、例えば沖縄や九州、中国地方、大阪など、いろんなところで青森県のフェアをやって、食べるものを売るのはもちろん、観光の宣伝などもしています。特に西北地域県民局では、県民局長が大活躍をしました。では、県民局長から少し宣伝してもらいます。

西北地域県民局長

我が地域をどうやって全国に知ってもらおうかということで、私たちは、特に西北でつくられる農水産物と観光の2つをうまく使って、全国に売り込んでいきたいと考えて、いろんなことをしています。

その中で特に、五所川原にある津軽金山焼が、色合い、風合いがものすごくよくて、全国で評判を呼んでいます。これを全国に売り込もうということで、去年もおととしも、夏に「炎のフェスタin奥津軽」として、津軽金山焼と西北地域の農水産物をつかった料理をその器に乗せて皆さんに食べていただくというイベントをやりながら、マスコミにも広報として流すということをやっています。

それから、今年6月19日には太宰治生誕100年ということで、全国にいろんな情報が流れました。私たちは、観光ということで切り口を考えたときに、太宰治という世界にも有名な作家の名前をキーワードにしてイベントをさまざまやれば、全国の人たちが注目してくれるだろうということで、太宰生誕100年を記念して、9月5、6日の2日間、

金木の芦野公園で、「太宰ミュージアム開館プロモーション事業」を行いました。そのときには、1,400人ほど県外のお客さんも来ましたし、西北管内、青森、弘前も含めて全部で1万人近くのお客さんが太宰ミュージアムに来て楽しんでくれました。そこでは三味線とか手踊りとか、食べ物とか、いっぱい楽しめるものを用意して、1万人のお客さんに喜んでいただきました。そのことはNHKの全国放送でも流されましたし、全国誌の雑誌にも記事が掲載されました。そういうことを一つ一つ積み重ねてやることによって、全国の人たちが、青森県の中の五所川原、鱒ヶ沢、深浦に、こんなおもしろいものがあることを知ってもらい、行ってみよう、来てみようということで来ていただく。そういうことを一つ一つ積み重ねていきたいと思っています。

知事

県民局長からも話がありましたが、例えば、『坊ちゃん』といえば松山、太宰といえば青森の西北五という感じで、いろんな青森の宣伝の仕方、いろんな方向から進めています。

生徒6

今、鱒ヶ沢の財政も厳しい状況で、青森のほうも大変なことになっていると思います。さっき知事さんは、地方交付税交付金が減らされていると言っていたし、新幹線が開通することで新しい観光地や建物を建てることで借金が増えてくると思うんですが、財政を回復させるために今行っていることは何ですか。

知事

財政が厳しいからといって、歳出をなんでもただ減らすだけではなく、県経済を止めないで、税収も上げながら、どう借金を返していくかということが大切なんですが、一番シンプルなことは、知事になって、いわゆる箱モノは一つもやっていません。知事になった時点で引き継いだ、例えば、美術館などは見直しをしておきました。

今、国では事業の仕分け作業をしています。青森県では、すべての項目について、この6年間で既に見直しを行いました。具体的には、すごく急ぐ必要があるもの、継続的に進めなければいけないもの、ちょっと待ってもらっても大丈夫なもの、というふうに順番づけをしました。事業の選択と集中と言って、一番集中したのは、医師確保もそうですが、雇用対策、つまり働く場をつくっていくための企業誘致だとか、起業・創業する人たちを支えるための仕組みづくりとか、そういうところに集中しました。それから、社会保障、要するに、医療費や、年をとった人たちの福祉は絶対に減らせないし、高齢者が増えているから、この部分が増えていくのを見越しながら、その他の削れるものを削り、財政再建を進めてきました。

特に協力してくれた県民の皆さんにも県議会にも感謝しています。財政の状況が大赤字

で、もう青森がつぶれそうだというひどい状態であるという説明会を延べ1,100回開催して、だから、おたくのほうの補助は5%減らせていただきます、公共投資は3~4割減らせていただきますとか、全部の団体とか市町村にも説明をしながら、合意してもらって進めてきました。要するに、急に削減・廃止してしまうのではなく、きちんと全部、状況を説明して、最初は反対・反発されることもありましたが、青森県が行財政改革、財政再建を進めている途中で、北海道夕張市が財政再建団体になったこともあり、皆さんも青森県がおかれている状況がいかにお大変かということを理解してくれたということです。

今、県だけでなく鰯ヶ沢もそうですが、各市町村もそれぞれに行財政改革を一生懸命やっています。市長さん、町長さん、村長さんたち、「長」のつく立場の人はすごく大変です。ものすごいプレッシャーの中で頑張っています。

だから、さっきも話したけれど、ごみの分別一つにしても、買い物袋を持っていくこと一つにしても、公で、役場とか県とかで、みんなでこうしましょう、むだなエネルギーを使わないようにしましょうと呼びかけていることに、少しずつでいいから、みんなで協力してくれると、全体として楽になっていくと思います。そういった積み重ねの中で、青森を元気にしたいと思います。

しかしながら、青森県の場合は、鰯ヶ沢もそうだけれど、誘致した企業の人皆さんに「青森の人はずごくまじめだし、正直だし、よく働いてくれて、どんどんいい品物ができる。」と言われます。ある大手企業からは、「歩どまり世界一だ。」とも言われました。つまりつくったものから欠陥品が出ないということです。そのぐらい青森の「人財力」はすごいと思います。人の力ということに、すごく自分は期待しています。皆さんたちがいてくれるから、我々も頑張りがいがあるし、皆さんたちがお医者さんになるとか、いろいろな夢を語ってくれるから一生懸命に仕事ができる。青森を守るための、青森をよくするための仕事ができると自分では思っています。

生徒会長

以上で意見交換を終了します。三村知事さん、発言者の皆さん、どうもありがとうございました。

今日は三村知事さんとの意見交換を通して、私達の青森県、私達の鰯ヶ沢町の将来について改めて考えることができました。また、三村知事さんには、私達の質問などに親切に答えていただき、本当にありがとうございました。とても有意義な時間を持つことができました。この貴重な経験をこれからの私達の糧にしていきたいと思います。

司会生徒

ここで全校合唱を聴いて頂きたいと思います。歌う曲はじょんから節と校歌の二曲です。

(合唱)

知事

鱒ヶ沢一中の生徒諸君、今日は、皆さんと思いきり話すことができました。そして、今、校歌を含めて二曲聞かせてもらいました。平成23年には、今度学校が統合していくとのことですが、自分自身もこの鱒ヶ沢一中で皆さんからいただいた元気、そして皆さんがもっている大きな未来への可能性、そのことをこの校歌とともに、忘れないで仕事をしていきたいと思っています。



この鱒ヶ沢の町の歴史を考えてみたときに、日本海という国境なくどこへでも渡っていきける大海原に開けた町、それが鱒ヶ沢です。大陸とも手こぎの船で行き来をしていた、この海を相手に人生を堂々と乗り越えていった人たち、その人たちが集まってつくったのが、この鱒ヶ沢の町だと私は思っています。そのときに何が大事だったのかなと思います。昔の人、今を生きる君たちもそうだと思いますが、あの先はどうなっているんだろう、知りたい、という「好奇心」と、新しいものをどんどん取り入れていく、常に時代やいろんなものが変化していく中で恐れずに新しいものを取り入れていき自らのものとして生かしていく「進取の気性」があったのではないかという気がします。今日、鱒ヶ沢一中の皆さんに、贈りたい言葉というか、自分の思いとすれば、決して好奇心というものを失わない、そういった人生を送って行って欲しいということと、進取の気性、この海に開けてきた町だからこそ、君たちの血の中に持っている、新しいものを取り入れていく、その気持ちというものも失わないでもらいたいと思っています。

今日はとてもすばらしい時間を生徒諸君からいただくことができました。むしろ自分自身が心から感謝したい、その思いです。本当に今日はありがとう。